



図書館だより

No. 8

●Reading books...
your chance now!

Vice President for Academic Exchange
Professor, Faculty of Foreign Studies
Jean-Claude Hollerich sj

●ラーニング・コモンズを使いこなそう

●図書選定委員お薦めの本

総合人間科学部教育学科図書選定委員
／総合人間科学部准教授 北村 友人

●使ってみよう! 新聞データベース

●図書館掲示板

夏期休暇中の長期貸出について
夏期休暇中の開館時間等について

●図書館豆知識

上智で電子書籍元年を体感できる!?



Reading books...your chance now!

Vice President for Academic Exchange
Professor, Faculty of Foreign Studies

Jean-Claude Hollerich sj



When I was a child I was an intensive reader. Of course the books that raised my interest at that time were not books of learned scholarship, but books of adventure featuring Indians and cowboys, knights and kings. Nowadays my choice of books is different, but there is still a common point: seeing a new book, starting to read a new volume is like a new adventure, advancing in a world of the unknown, starting a discovery.

While my experience remains the same, the surrounding world of reading has changed: old volumes get replaced by technological devices. Sometimes in order to prepare a report students have to use the internet sources as much as the library. This change to the net changes also the structure of texts: texts get shorter, sometimes less complex, they adapt to their new medium, the computer screen. However I do not think that changes are bad, they offer us new

chances. I became myself a fervent user of new electronic reading devices.

I might be a bookish romantic, but I think that the new devices will not replace the book. The old normal books, the pages which sometimes show their frequent use over the ages, have a seduction difficult to resist. Books are friends, confidants; they lead to new horizons, open up new perspectives.

I am however, I must confess, afraid of one type of person: the one-book-person. Let me explain: the content of the last read book gets assimilated without any critical thinking; the book gets an absolute standard which no doubt can shatter. Students should not be persons of one book, but of many books. Our reading experience leads us to critical thinking; reading is always a dialogue with the author, never the unconditional accepting of new content.

In this sense I would encourage all of you to read many books, not only at the time of exams and reports, not only because you got an assignment. You should read, because you are a student. Allow me a simple comparison: a student without books is like a coffee machine without coffee, a mere name without content.

Use your time for reading now; you will never have as much time in your whole life!

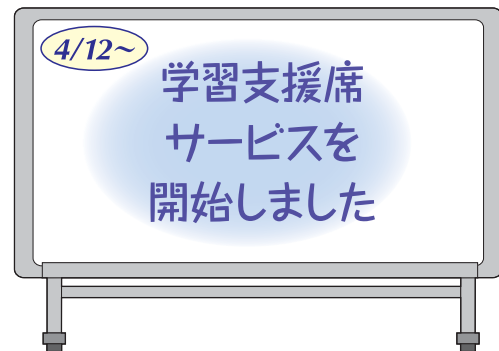
ラーニング・コモンズを 使いこなそう

ラーニング・コモンズでは無線 LAN・有線 LAN を使用できる PC コーナーや、
プレゼンテーションエリア、グループ学習コーナーなども設けています。
ラーニング・コモンズを使って、学習研究活動を有意義なものとして下さい。

図書館地下1階、ラーニング・コモンズ内の学習支援席では、学習に関するさまざまな質問を受け付けています。

学習を進める上で分からないこと、困ったことはありませんか？

大学院生のスタッフが、卒論・レポート作成等の経験を活かし、学習相談や質問にお答えします。



<Service hours>

月～金 12:30 ～ 17:00 (質問受付は 16:30 まで)
(夏期休暇期間中のサービスはありません。)

<こんな質問待ってます>

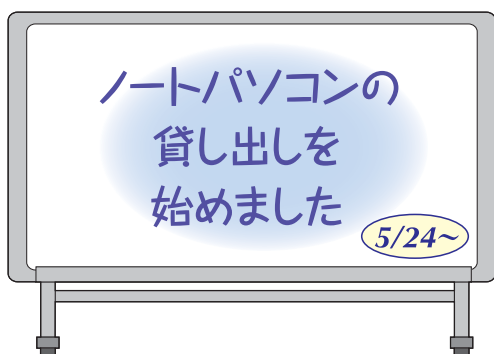
- レポート・論文作成の手順が分からない
- 引用の仕方、引用文献の書き方が分からない
- プレゼンテーションのアドバイスを受けたい
- 文献・情報収集の方法を教えてください
- 授業の受け方、ノートのとり方、ゼミの選び方について知りたい など



学習支援席 (B1F ラーニング・コモンズ内)

質問予約も受け付けています。学習支援席で直接予約してください。

現在、学習支援席のスタッフは大学院生(神学専攻・史学専攻・ドイツ文学専攻・フランス文学専攻、理工学専攻)の計8名です。皆さんからの質問をお待ちしています。



5月24日(月)より、図書館地下1階ラーニング・コモンズのサービスデスクで、ノートパソコンの貸し出しを開始しました。



サービスデスク (B1F ラーニング・コモンズ内)

<貸出時間> 月～金 9:00 ～ 16:45 (利用時間は最長で3時間まで)

- <対 象 者>** 本学学生、上智短期大学学生、上智社会福祉専門学校学生、聴講生等、教職員
- <貸出場所>** サービスデスク
- <利用場所>** 中央図書館内に限る。
- <手続方法>** ①貸出台帳に必要事項を記入する。
②学生証と引き換えにノートパソコンを借りる。
③ノートパソコン返却の際に学生証を受け取り、返却時間等の必要事項を記入する。

<利用上の注意>

- ・ノートパソコンの利用は図書館内でお願いします。図書館外への持ち出しはできません。
- ・利用は最長で3時間までです。
- ・データを保存するためのUSBなどをご持参下さい。
ノートパソコンの電源を切ると、それまで作成したデータは消去されますので、必ず自分のUSBなどにデータを保存してください。
※データが壊れた・消去されたなどの場合、大学は責任を負いかねます。

図書館内では各階で無線 LAN が利用できます。また、ラーニング・コモンズ内では有線 LAN も利用できます。自分のノートパソコンや貸出用ノートパソコンからインターネット経由で電子ジャーナルやデータベースにアクセスできます。2階の情報検索室・コンピュータールーム L には約90台のパソコンがあります。これらを有効に活用して皆さんの学習に役立てて下さい。



ノート PC 利用エリア (B1F ラーニング・コモンズ内)



プレゼンテーションエリア (B1F ラーニング・コモンズ内)



図書館では、ラーニング・コモンズで学習支援セミナーを企画・実施し、他部署とも協力して皆さんの学習を支援していきたいと考えています。4月と5月に開催したセミナーをご紹介します。

ラーニング・コモンズ セミナーを 開催しました！

カウンセリングセンター企画講座

「大学ってどんなところ?」、 「心理テストを用いた自己理解 TEG(東大式エゴグラム)」



4月と5月に計7回にわたって、「大学ってどんなところ?」、「心理テストを用いた自己理解 TEG(東大式エゴグラム)」と題して、カウンセリングセンターのカウンセラーにお話しいただきました。

4月15日(木)、19日(月)の Part1「大学ってどんなところ?」

①**あなたが大学で学びたいことは?**では、新入生がこれから学習を始めるにあたって、4年後の自分が4年間の学生生活を振り返っている姿を想像して、自分が大学で学びたいことを考えていきました。

4月22日(木)、26日(月)の Part2「大学ってどんなところ?」

②**不安や緊張への対処**では、不安になったときに、自分の状況を客観的に用紙に書いたり、自己チェックリストや「パーソナル・リソースシート」に記入する方法を実践してみました。

5月12日(水)、20日(木)、28日(金)「**心理テストを用いた自己理解 TEG(東大式エゴグラム)**」では TEG という心理テストについて説明があり、心理テストを実際に行いながら自己分析しました。

新入生を中心に計37名の参加者があり、「不安が生じる仕組みが分かった」、「自分の性格を客観的に見ることができた」、「自己分析の一步になった。自分に足りていない部分をこれから補っていこうと思った」などの感想をいただきました。



法科大学院教授によるセミナー

「大学生が知っておくべき法律問題の基礎知識」

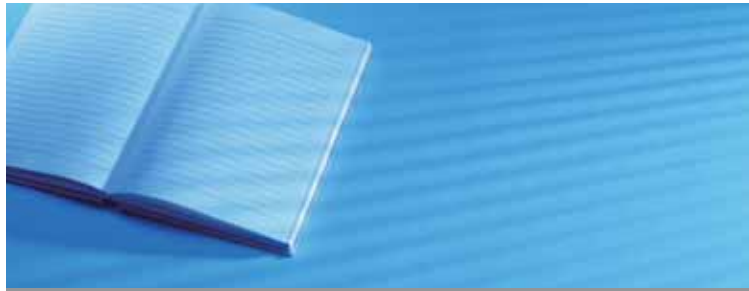
4月28日(水)に滝澤図書館長による「**大学生が知っておくべき法律問題の基礎知識**」を開催し、16名の参加がありました。

裁判員に選ばれたときの心構えや、最高裁判所判事の国民審査のやり方、住まいや金銭トラブルを解決する方法など、大学生として、また社会人として知っておくべき法的知識についてお話いただきました。

参加した学生からは、「裁判員制度についての説明がわかりやすく、知らなかったこともあり面白かった」、「身近な事象の中で法律がどう生かされるのかがよく分かった」、「日本と外国の法律の相違についてよく分かった」などの感想が寄せられました。



今後も図書館では、ラーニング・コモンズセミナーを開催していきます。今後の開催日程等については、図書館の掲示やホームページ(各種お知らせ—図書館からのお知らせ)をご覧ください。<http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/lib/topics/01>



図書選定委員お薦めの本

総合人間科学部教育学科図書選定委員
／総合人間科学部准教授

北村 友人

『ハマータウンの野郎どもー学校への反抗 労働への順応ー』

(ポール・ウィリス著、熊沢誠・山田潤訳、ちくま学芸文庫)

≫ 図書館所蔵

学部(地下2階)

請求番号 366.38 W745 1996

原書: 書庫5階

請求番号

HD: 6276: G7: W54: 1977

何とも変わったタイトルの本です。これは、心躍る冒険活劇なのか、あるいはマフィアの抗争などを描いたノワール調の小説でしょうか……いいえ、残念ながらと言うべきなのか、どちらでもありません。これは歴とした学術書であり、教育学や社会学では重要な研究として広く認められている本です。

本書は、1970年代のイギリスの工業都市で、主に労働者階級の子どもたちが通う中等学校において11歳～16歳の白人男子生徒たちを対象として行ったフィールド調査の結果です。著者のポール・ウィリスは、「なぜ労働者階級の子どもたちは、他の進路を選ぶのではなく、労働者階級の仕事に就くのだろうか」という疑問を抱き、その理由を明らかにするためにエスノグラフィーの手法を用いて、労働者階級の子どもたちが自分たちの学校生活や将来の進路などについて何を考えているのかを解き明かしてみせます。そして、「荒れ」ていて、「落ちこぼれ」である労働者階級の生徒たち(=「野郎ども(the lads)」)は、単純に「落ちこぼれている」のではなく、彼らがもっている「反学校の文化」にもとづいて自ら進んで「落ちこぼれている」のだ、ということを鮮やかに描き出しています。

私が専門としている教育社会学では、学校教育を通じた階層格差の社会的・文化的な再生産というテーマに関する研究が数多く行われています。昨今、「格差社会」や「貧困」といった言葉がマスコミでもしばしば取り上げられるため、こうした問題に関心の高い学生さんの数は少なくないと想像します。そうした学生さんたちに、ぜひともお薦めしたいのが本書です。

この本の重要な概念のひとつである「学校の文化」というのは、基本的に中産階級的な文化であり、社会のなかのマジョリティが有する価値観と親和的であると考えられています。そのため、労働者階級やマイノリティの生徒たちは、そうした文化に馴染むことがなかなかできず、学校のなかでの諸活動(とくにアカデミックな学習)に対して関心をもつことが難しくなります。それは、彼らが学業達成の面で不利な条件におかれているということを意味し、学校教育を受けていくなかで彼らの「アスピレーション(やる気・向上心)」が徐々に低下させられてしまうのです。そうしたなかで、労働者階級の子どもたちはアカデミックな進路への関心をもつことなく、労働市場に出ていく際には自分たちの親世代と同じような職業階層(=単純肉体労働を中心とした職業階層)に入っていく(つまり、「再生産」されていく)こととなります。

かつては、このような社会的・文化的な再生産に関する議論において、労働者階級の子どもたちはあくまでも「受け身」な存在であると捉えられていました。つまり、たとえば教師-生徒間

の人間関係を構築していく過程などで、学校によって「落ちこぼれさせられている」のだと理解されていたのです。そうした見方に対してウィリスは、実は労働者階級の子どもたちは「学校の文化」のあり方をよく理解したうえで、あえて「反学校の文化」を強調することで、自ら「落ちこぼれている」のであり、決して「受け身」なだけの存在ではないのだということを主張しています。つまり、教師をはじめとする他者から、自分たちがどのように見られているのかということを十分理解したうえで、「どうせ俺はこうなるのだらうとみんな思っているんだらう」といった思いをもって、自分たちの振る舞いや意思を決定しているのです。その意味では、彼らは自発的に自らの存在を規定しているのですが、そのように自ら進んで単純肉体労働を中心とした職業階層に入ることによって、結果として既存の社会秩序を再生産してしまっているというのは、こうした階層に関わる問題の根深さをより象徴していると思います。

なお、本書のなかでウィリスは、白人男子生徒たちのみを調査対象としましたが、それはあくまでも分析の明確さを期すためであり、女子生徒や有色人種の生徒たちが形成する「反学校の文化」を理解することの重要性も指摘しています。

最後に、本書の原題について少し触れたいと思います。本書は、Learning to Labour: How working class kids get working class jobsと題されていますが、「訳者あとがき」で説明されているように、とても示唆的なタイトルです。「Learning to Labour」は、「働かかたを学ぶこと」という素直な解釈もできますが、「勉強したあげくに工場入り(=労働者の仲間入り)」といった理解や、「下働きの身分をわきまえること(=労働者になることを学ぶ)」などといった意味にとることもできます。これは、学校教育のなかでは本来、「学ぶ」ことで進路の選択肢が増えたり、自らの存在についてより自由に、より柔軟に考えることができるようになると期待されているにもかかわらず、「学校文化」にもとづく「学び」によって、かえって子どもたちの意識が限定的かつ狭隘なものになってしまう危険性があることを、私たちに気づかせてくれます。

本書を読んだうえで、現在の私たちが生活している日本の社会について考えてみてください。何も大きな社会的問題について考えなくとも、みなさんが送ってきた学校生活を振り返り、自分や周りの友達のことなどを思い出して、身近なところにある「格差」の問題などに目を向けることから始めれば良いと思います。そうしたときに、本書は、時代の違いや、階級社会が根づいているイギリスとの文脈的な異なりはありますが、今日の日本に暮らす私たちが読んでもなお新鮮な見方を提示してくれる、貴重な本だと思います。



使ってみよう！ 新聞データベース

図書館では下記の新聞データベースを購入しています。データベースではほとんどの記事が全文読み、過去の記事を容易に検索できます。学内どこからでもアクセスすることが出来ます。目的に応じて有効活用してください。

アクセス方法

図書館ホームページ「情報検索」→「データベース／目的・分野別」→「新聞記事を探す」

<http://www.sophia.ac.jp/jpn/research/lib/search/online/newspaper>

※利用時の注意

- ・ 同時アクセス数 ・ 同時に利用できる人数に制限があるデータベースには、同時アクセス<人数>を記載しています。つながらない場合は、時間を置いて再度アクセスしてみてください。
- ・ ログアウト注意 ・ 利用後は必ずログアウトしてください。

上智で利用できる新聞データベース

■ヨミダス歴史館 <同時アクセス 2>

1874(明治7)年から1989年までの読売新聞紙面イメージ、1986年9月以降の読売新聞記事、THE DAILY YOMIURI 等が閲覧できます。



■毎日 News パック <同時アクセス 2>

1987 年以降の毎日新聞の各本社と地方版の記事、『週刊エコノミスト』等が閲覧できます。



■聞蔵Ⅱビジュアル <同時アクセス 2>

朝日新聞(縮刷版:1879(明治12)年～1984;記事全文1985～)、AERA1988年5月～、週刊朝日2000年4月～、知恵蔵最新版、歴史写真アーカイブ・人物DBが閲覧できます。



■日経テレコン 21 <同時アクセス 10>

日経四紙 1975 年以降の記事検索、政府官公庁提供の主要マクロ経済統計、金利、為替データが閲覧できます。検索したい項目のタブを選んで検索します。

<記事検索>



キーワードを入力すると



記事の見出しが検索されます。



<企業検索>



<POS 情報 (売れ筋商品ランキング)>



■Nikkei.com <同時アクセス 2>

日本経済新聞の英語版や会社情報などの日本経済に関する情報が英語で入手できるデータベースです。(利用時は画面右「緑色の Login」ボタンをクリックしてください。)



■LexisNexis Academic

世界各国の新聞・雑誌・通信記事。テレビのトランスクリプト、世論調査等の他、企業、法律、医学情報、人物情報、国情情報等、英語を中心として多言語の媒体を収録。タブを切り替えて、カテゴリーに合わせた検索もできます。

※操作マニュアルに利用方法がわかりやすく説明されています。参照しながらご利用ください。



■人民日報

中国中央政府と中国共産党の政治法規、政治動向や経済情報などを発表しています。1946年の創刊から現在までの記事が閲覧できます。





図書館掲示板

夏期休暇中の長期貸出について

夏期休暇に伴い、7月23日(金)～9月30日(木)は長期貸出を行います。

対象者：学部生、大学院生、聴講生、社専生、短大生、非常勤教員、館友会員

対 象 者	貸 出 日	返 却 期 限
学部生、聴講生、社専生、 短大生、館友会員	7月23日(金)～8月31日(火)	10月6日(水)
	9月1日(水)～9月30日(木)	10月14日(木)
大学院生 非常勤教員	7月23日(金)～8月31日(火)	10月6日(水)
	9月1日(水)～9月14日(火)	10月14日(木)

夏期休暇中の開館時間等について

夏期休暇中【8月2日(月)～9月30日(木)】は、中央図書館の開館時間、各種サービス時間は授業期間中と異なります。

サービス時間等に変更になる場合がありますので、詳細は図書館ホームページでご確認ください。

<中央図書館>

開館時間 月～金…9:00～18:00

土 …9:00～17:00

休館日/日、祝日

* 8月13日(金)～8月19日(木)は、レファレンスカウンターサービスはありません。5階複写サービス室は閉室です。セルフコピー機は利用できます。

サービス内容	月～金	土
1F 貸出	9:00～18:00	9:00～17:00
1F AV コーナー	9:00～17:00	なし
1F レファレンス	9:00～17:00	なし
2F 情報検索室・コンピュータールームL	9:00～18:00	9:00～17:00
5F 複写サービス室	9:00～17:00	9:00～13:00
B1F ラーニング・commons*	9:00～17:00	なし

* 学習支援サービスはありません。

<法科大学院図書室>

開室・サービス時間 月～金… 9:00～20:00

土、日、祝日…10:00～18:00

休室日/8月29日(日) *全学停電のため

<石神井分館>

開館日・貸出サービス時間

月～金…9:00～17:00

休館日/8月2日(月)～8月31日(火)、
9月の土、日、祝日



図書館豆知識

上智で電子書籍元年を体感できる!?

今年は iPad が日本でも発売され「電子書籍元年」と言われています。携帯端末こそありませんが、上智大学の中でもパソコンで電子書籍を読むことができます。日本関係の英語の図書でも理工系の日本語図書を中心に利用できる図書は増えています。図書館ホームページ『情報検索』→『電子ブック』から利用できます。

従来紙で出版されていた雑誌が電子ジャーナルとして便利な検索機能とリンク機能付で生まれ変わり、もうすっかり学習・研究ツールとして定着しました。図書も少しずつ電子書籍の波が訪れています。



上智大学図書館だより No. 8

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町7-1
TEL : 03-3238-3510
FAX : 03-3238-3139
発行日 2010年7月1日
印刷 三鈴印刷株式会社
TEL : 03-5276-0811